

わが町の名人・達人・職人

〃空中散歩の達人〃

砂川 丈夫さん
すながわ ますらお

(昭和14年2月13日生まれ)



積善山のパラグライダー離陸場にて

今月号は、岩城の空を飛び回る「空中散歩（パラグライダー）」の達人「砂川さんにお話を伺いましたので、紹介します。」

砂川さんは、岩城島に生まれ、伯方高校を卒業後、就職難の時代ということもあり東京や大阪等でうどん屋・薬屋等のいろいろな仕事をしていました。

そんな時、知人が今治で民宿を始めるので、管理人をしてくれないかとの話があり、その仕事を勤めました。そこで、水商売は面白いと思ひ、

30歳くらいの時に岩城島に帰って、小さいながらも食堂「よし正」を開店しました。開店から数年間は、夜も寝ずに人の3倍は働いたと言われていました。数年後、島外のお客さんにも岩城島に泊まってもらい、島の味を味わってもらおうと民宿を始めました。そして、幸運にも新聞の記事になったり、テレビに出演できたりし、民宿はやつと軌道に乗りました。その後、割烹民宿「よし正」には、美味しい魚料理を求めて多くのお客さんが訪れるようになりました。そんな中、パラグライダーと出会ったそうです。

いろいろなところを飛んだが
やはり岩城が一番きれいです

①パラグライダーとの出会いは？

59歳の時、岩城島でパラグライダー大会があり、それを下から見ているきれいだなあといい、すぐに積善山の離陸場に登ってみて、これなら自分でも出来るんじゃないかと思ひ、始めることにしました。いろいろな練習を重ねて、初めて飛んだ時の爽快感はたまりませんでした。

それからは、パラグライダーのライセンス「パイロット証」を取得し、天候・風の良いときは、毎日でも飛んでいます。風の良い時は、空中で

1〜2時間くらいは飛んでいることができますよ。
②今までどんなところを飛びましたか？

九州や岐阜、琵琶湖などいろいろなところに行きました。でも、いろいろなところを飛びましたが、やはり岩城が一番きれいですよ。山があり海があり、遠く島並みも眺められ、こんなに美しい景色が揃っているのは岩城だけです。



①準備…ラインのチェック

②見事にテイクオフ



③上昇気流にも乗って最高の景色

③元気の秘訣は？

積善山の離陸場まで車で上がって、パラグライダーで飛んで降りて、そこからまた離陸場まで歩いて上がります。これが元気の秘訣ですね。45分から1時間くらいかけてゆつくりの

んびりと歩きます。しんどい思いをするのは体に良くないと思いますよ。
④一日の生活リズムは？

朝4時半に起きて、パンとコーヒーを食べてから、8時頃まで魚釣りに出ます。それから、朝食と昼食を兼ねてご飯を食べて、店を手伝います。昼からは、天候が良ければパラグライダーをしています。

⑤これからの夢・目標

ギネスブックに載るくらいの年齢（90歳くらい）まで飛びたいと思います。それが大目標です。また、海外でも飛んでみたいです。

そして、もつといういろいろな人にパラグライダーをやってほしいです。練習さえしておけば、誰でもできるスポーツです。風が相手の気持ちのいいパラグライダーを味わいに、岩城島へ多くの人が訪れて欲しいです。

⑥上島町に期待すること

早く橋がつかねばいいです。そうすれば、何をすることもスムーズに動くことが出来るし、パラグライダーも含めて本当の交流ができると思います。

また、遊休農地の活用も考えていかなければならないと思います。例えば、パラグライダーの練習場にしたたりして、「パラグライダーの島」にしてもいいんじゃないですか。

⑦上島町の人々へのメッセージ

楽しく長生きしましょう。いずれ架橋でつながるんだから、島を大切にしていきましょう。